

埼玉県支部の取り組み

救護資機材の整備・更新

救護活動を安全かつ効果的に実施するには、適切な資機材が必要不可欠です。当支部では以前から救護資機材の整備に努めてきましたが、東日本大震災の発災を受け、資機材の量・質の更なる充実を図ることとしました。昨年度から今年度にかけて更新・整備した主な救護資機材は次のとおりです。これらの整備には県民の皆様からご協力いただいた社資と、東日本大震災の際に海外の赤十字社から寄せられた救援金で賄われています。

■平成23年度・24年度に更新した主な救護資機材

救護班要員用安全靴・ヘルメット、携帯電話、トリアージシート、無線機、救護活動用非常食

■平成23年度・24年度に整備した（又は予定）主な資機材

フレームテント、リフトテント、衛星携帯電話、ドクターカー、救護所用冷暖房機器、トリアージエリア用ベスト、救護員用ポロシャツ、救護班用キャリーバッグ、巡回診療用バッグ

災害救援物資の備蓄

日本赤十字社では、統一仕様の「毛布」、「安眠セット」、「緊急セット」の三点を財団法人JKA（競輪とオートレースの振興法人）の助成等により全国に備蓄しています。当支部では、それらに加え独自に「布団セット」も備蓄しており、大規模災害・小規模災害（火災など）の際に、各市区町村の赤十字の窓口を経由して被災者の方にお渡ししています。これらの物資は、各市区町村のほか、県内5カ所の赤十字施設に分置（備蓄）しています。



毛布



安眠セット



緊急セット



布団セット

防災ボランティアの養成

赤十字の救護活動にご協力いただけるボランティアを養成するセミナーを年に2~3回開催しています。このセミナーでは、「赤十字と災害救護について理解を深めていただくほか、救護資機材の取り扱いやロープワークなどを行います。また、このほか地域の赤十字奉仕団員を対象にしたセミナーも開催しており、災害時に各地域で活動できるボランティアの養成に努めています。



生命と健康を守る講習会の開催

災害が発生した場合、公的な機関（消防や警察、自衛隊）が救助にあたりますが、現場に到着するにも平時よりも時間を要します。一刻の予断も許さない状況では、自分の身は自分や家族、近くにいる人が守らなければなりません。そのために、当支部は、けがや病気に対する正しい知識と手当てをお伝えするとともに、災害から自分自身を守る講習会を年間を通して県内各地で開催しています。平成25年2月までの講習会開催予定は、最終ページをご覧ください。



救急法（心肺蘇生とAEDの使い方）